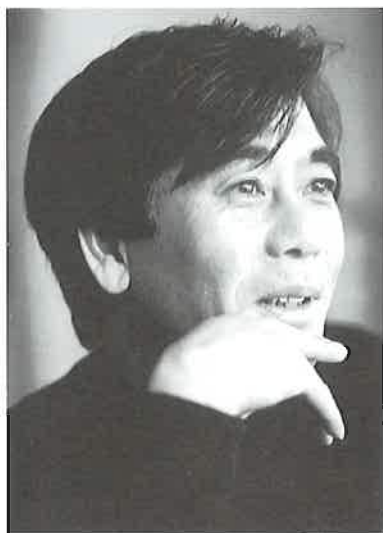




人生・農業 リセット再出発!

RESET RESET RESET 第18回



元国際線航空会社乗務員・作家
黒木安馬

1950年熊本県生まれ。高校在学中にAFS奨学生で米国留学後、早稲田大学を経て日本航空に入社。国際線乗務員として業界の常識を破る「カラオケ・フライト」を企画して計7便飛ばし、後に北島三郎らによる「世界初1万メートル上空機上コンサート」も実現させた。自宅は28歳の時に1300坪の土地を開墾して2年半がかりでプールを手作りし、テニスコート、コンサートホールも造る。自宅ステージでは加藤登紀子、山下洋輪、坂田明、尾崎紀世彦など多くのライブやピカソ展を企画し、地域活性化触発運動「グループ・ザ・田舎るちあ」を主宰。多くの実体験に基づいた人生成功哲学の講演や著書は大手企業でも人気を博している。昨年一杯で航空を退職して(株)日本成功学会を設立、代表取締役社長として活躍中。著書に「面白くなくちゃ人生じゃない!」(KKロングセラーズ)、「出過ぎる杭は打ちにくい」(ワニブックス)、「リセット人生再起動マニュアル」(ワニブックス)、「小説・球磨川」(ワニブックス上下巻)がある。E-mail : kuroki-yasuma@love.biglobe.ne.jp

メラビアンの法則というの

がある。相手を判断する時の心理学的考察だが、最初の55%は服装・身振り・表情で決まり、38%が音声表現、メッセージ内容はわずか7%でしかないと言われる。

異性を選ぶ時には何を基準にするかと聞かれれば、人格、性格、見栄え、知性の順番と表面的には答えるが、実際は、見栄え、人格、性格、知性となり、ここでも第一印象である外観が最優先となる。

見かけの服装などはそれなりに準備すれば済むことだが、重要なのは「表情」である。中でも目、目は口ほ

どに、口以上にものを言う。その目

線合わせ、アイコンタクトはまさに画竜点睛なのである。ステューワーズ教育で徹底させるのもここである。

搭乗時にお客様を迎えるときや、接客応対時に顔を上げたときでも最後まで丁寧目線を外さないようにする「目切り」の妙。人間関係はつまるところ敵か味方か、好きか嫌いかわからない。最初に好きになって貰うことがもつとも大切なのである。

恋人たちが視線をそらすようになれば、もうおしまいである。

人生で成功している人は初対面であつても必ず好意的な目で語りかけ

る。成功とは、自分を鏡に映して現在の自分に満足することであるから、目が総てを物語る。

潜在的に無意識に想っている「心」は、必ず表情の「行動」になり、それは「習癖」につながる。そのクセは「品性」になり、「人格」になって行き、究極の「運命」を決定づけることになる。いやだな、と想つていれば当然そのような目になってしまふ誘引の法則が働く。犬やサルが目に見入るだけで攻撃されるのは、自分の心の目がそうなるように伝達している結果なのである。赤ん坊の眼が澄んでいるのは邪念がないから、いやだな、と言う嫌悪がないからなのである。

とすれば、いつも陽転志向で、人生は一期一会、一刻でも無駄にするのはもったいないとケチを心がけ、意識して鏡を見て満面に微笑みを絶やさず、心に夢を、目に輝きを持つようにしておけば、必ずや、それは素晴らしい習癖として身につけて高邁な人格となり、直ぐにでも素敵な運命は開けるはずである。

怒るは無知、涙は修行、笑うは悟りである。濡れ手で粟、棚からぼた餅も、元の準備があればこそ。運命のチャンスは用意できていない人だけに巡ってくるのである。